



春日クリニック

25周年企画

リレーエッセイ③ 統括部長 浦上 誠



紙面半分では書き尽くせませんが…「私の思い出 ベスト2」

### 1. はるかぜネットワーク創刊

平成5年6月に創刊して、現在266号（平成29年8月現在）。私にとってネットワークは、「春日クリニック」の思い出（歴史）がぎっしり詰まったアルバムのようなもの。歴代編集長のペンネームは、私が始まりで「春風 寝頭」と書いてネット君と呼ばれていました。その後「春風 吹世」「春風 突風」「春風 静香」（現在）とバトンタッチ。



掲載したい記事は、胸の内に山のようにあるのですが、当時のワープロの性能は低く、今のような文字の種類もなく絵は切り貼りで白黒と、構成技術のお粗末さも重なり四苦八苦でした。そんな私に力を与えてくれたのは、読者である患者さんでした。発行間隔は、季刊か3ヶ月に1回と考えていましたが、想像以上に評判がよく、結果的に毎月発行となった次第です。

紙面の大きさもA4からスタートし、B4、A3両面と内容も充実。66号までは、一人で行っていましたが、現在では広報委員会と成長し、複数のメンバーで当初の作成コンセプトを継続しながら作成しています。

平成9年9月に行われた、病院広報研究所主催「全国病院広報コンクール」で特別賞を受賞しました。更には、平成14年11月、日本HIS研究会主催「第2回BHI賞（ヘルスケア情報誌コンクール）」において、C部門（診療所、小規模施設等）で入賞し、翌年最優秀賞を受賞しました。



### 2. NHKドラマ「風をあつめて」の制作・放送が「地域包括ケア 杏心の丘」の原動力に

難病の娘を授かったことがきっかけで清田夫妻（理事長・院長）と知り合い、春日クリニックを通じて「娘からもらったメッセージ」を実現するという夢を追い求めながら、葛藤していく私の体験がドラマ化されました。平成23年2月11日にNHK特集ドラマ「風をあつめて」として放送され、再放送を含め年5回放映されました。平成23年度文化庁芸術祭テレビドラマ部門優秀賞を受賞し、このドラマが、「地域包括ケア杏心の丘」プロジェクトの原動力ともなりました。

ドラマに出てくる平田満（清田理事長役）さんが「清水クリニック建設プロジェクト」への協力を安田顕さん（私役）に求めるシーンがあります。この事が「杏心の丘建設プロジェクト」の事です。

地域包括ケア 杏心の丘が平成26年7月1日に開業し、長年目指してきた「安心ネットワーク」が形的にはほぼ完成しました。

娘のメッセージとは、家族の誰かが難病や介護が必要な状態となっても、施設や病院で暮らすのではなく、いつまでも共に暮らし続けることが出来る社会を実現する事です。社会までは変える力はありませんが、春日クリニックグループとしてコツコツと構築してきた「安心ネットワーク」の完成により、万全ではありませんが、春日の地域だけは実現できたと思っています。娘には残念ながら間に合いませんでしたが、現在、娘の祖母が杏心の丘で暮らしています。



⇒ 次回 読者寄稿その1

